

2025 年 9 月 24 日

通貨ニュース

台湾：9 月金融政策会合～景気は堅調も、 下半期の景気減速リスクに警戒を示す

台湾中央銀行(CBC)は 18 日、金融政策会合を開催し、政策金利(ディスカウントレート)を据え置き、2.00%とした(図表 1)。政策金利の据え置きは 6 会合連続での決定。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢だった。

声明文では世界経済動向について、前回 6 月会合以降、各国で米国との貿易交渉が進展したことを背景に不確実性が緩和されつつあるとの見方を示した。国内経済については、25 年 4～6 月期実質 GDP 成長率は前年同期比+8.01%と 1～3 月期の同+5.45%から更に加速した(図表 2)。内訳を見ると、1～3 月期に続いて輸出部門が大きくけん引した格好だが、米国の相互関税発動を見越した駆け込み需要のほか半導体が米国の関税対象外となっていることが寄与していると考えられる。米国の貿易政策に大きな変化がなければ AI 関連産業の伸びと共に輸出は好調を維持すると見込まれるが、個人消費が段階的に鈍化している点は不安材料である。上半期は年率ベースで前年比+6.75%の成長となったものの、下半期は同+2.51%に減速すると CBC は予想している。年間では従来の前年比+3.05%から+4.55%へ見通しを上方修正したものの、楊 CBC 総裁は上半期の結果は特殊要因と見ており、下半期の景気減速リスクに警戒感を示した。

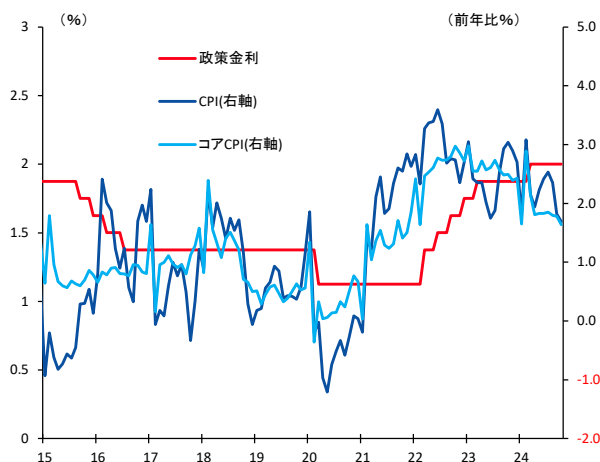
物価動向について、直近の 8 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.60%、エネルギー・野菜・果物を除いたコア CPI は同+1.74%と前回会合から大きなトレンドの変化は見られていない(図表 3)。25 年 1～8 月の累計ではそれぞれ同+1.83%と+1.64%となっているが、下半期について、インフレ要因となっていた食料品価格の鈍化をはじめインフレ圧力が弱まると予想している。かかる中、CBC は 25 年のインフレ見通しを総合ベースは従前の同+1.81%から+1.75%へ下方修正し、コアベースについては同+1.67%に据え置いた。

以上を踏まえて、CBC は金融政策の現状維持を決定した。特に米国の通商政策や金融政策の不確実性に対する警戒感は根強く、引き続き外部環境の変化に対する経済・物価への影響を見極めることを強調した。今回、利下げに対する言及はあまり見られなかったものの、輸出部門をはじめ景気減速懸念が強まる状況においては利下げ検討も視野に入ることを示唆している。

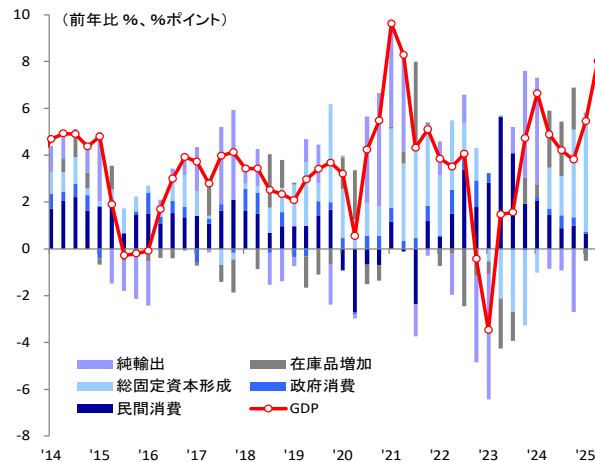
また、前回会合に続き CBC は足許の TWD 動向について、為替レートは市場の需給が決めるという原則の下で、過度な変動などが生じた場合には市場の秩序維持に努める方針を示した。5 月の TWD 急騰以降、TWD は対ドルで堅調な動きが続くが、足許にかけては緩やかな調整局面にある(図表 4)。しかし、9 月に FRB は利下げを再開して年内の追加利下げも視野に入ること、貿易黒字拡大に伴う実需の TWD 買いが期待できる中で、TWD は大崩れしないと考えている。一方、米中貿易交渉の行方や中国との地政学リスク再燃など為替につ

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

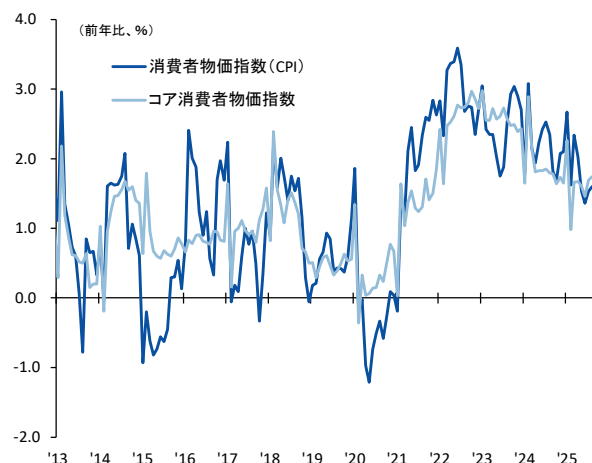
いても外部要因の不確実性が払拭しきれない点は留意すべきである。なお、TWD の年末までの想定レンジは対ドルで 29.0～32.0 と予想する。

図表 1: 政策金利とインフレ率


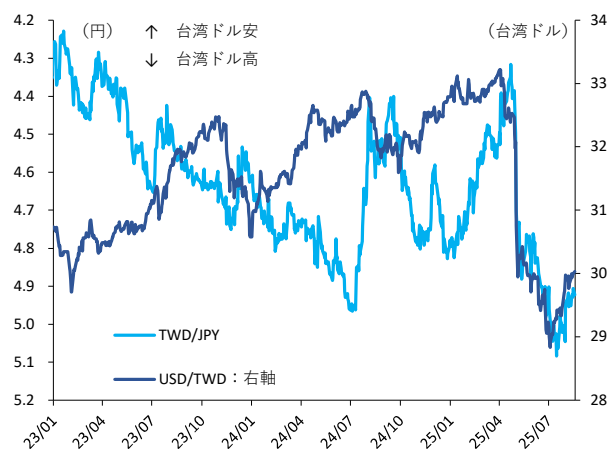
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の動向 (前年比%、%ポイント)


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価指数の推移


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: TWD の動向


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。